

かいほ ジャーナル



愛します! 守ります! 日本の海

海上保安庁情報誌
Japan Coast Guard Journal

Vol. **65**
2015 WINTER

北の海に 安心と安全を

【特集】第一管区海上保安本部 小樽海上保安部



海上保安庁
JAPAN COAST GUARD



PHOTO GRAVURE

- 1 平成27年9月関東・東北豪雨における救助活動
- 1 「海上保安フェスタ2015 in 横浜」を開催
- 2 海上保安政策課程開校式を実施
- 2 海上保安庁音楽隊第22回定期演奏会を実施
- 3 日本提案の海底地形名を国際会議が承認
- 3 バーチャルAIS航路標識の運用

【特集】

- 4 第一管区海上保安本部 小樽海上保安部

北の海に安心と安全を

TOPICS

- 10 **小樽 エトセトラ**
～特集では伝えきれなかった小樽をここで～

12 **NEWS FLASH**

裏表紙

INFORMATION

第16回未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール
受賞作品の決定



平成27年9月 関東・東北豪雨における救助活動



9月10日および11日、台風18号等にかかる大雨災害に特殊救難隊、機動救難士（第二管区、第五管区、第九管区所属）が出動し、救助活動を行いました。

2日間の昼夜の救助活動を通して延べ107人を救助しました。

「海上保安フェスタ 2015 in 横浜」を開催



10月10日、横浜海上防災基地において「海上保安フェスタ2015 in 横浜」を開催しました。このイベントは、特殊救難隊設立40周年および機動防除隊設立20周年を記念して開催され、巡視船「いず」による体験航海をはじめ、特殊救

難隊の展示訓練、機動防除隊の防除実験等多彩なイベントを行いました。

当日は約5,500人の方に来場いただき、多くの方々楽しんでいただきました。

海上保安政策課程開校式を実施



10月1日、太田国土交通大臣（当時）、佐藤海上保安庁長官参列のもと、海上保安政策課程開講式を実施しました。

海上保安政策課程は、政策研究大学院大学と海上保安大学校が連携し、世界初となる海上保

安政策に関する修士レベルの高度な教育を行うものであり、初年度となる今回は、海上保安庁及びアジア各国海上保安機関の初級幹部10名が参加します。

海上保安庁音楽隊 第22回定期演奏会を実施



11月16日、海上保安庁音楽隊の第22回定期演奏会が東京都文京区の「文京シビックホール」において開催され、会場には一般応募の中から抽選で選ばれた方々や来賓の方々など、合わせて約1,500人にご来場いただきました。

プログラム第I部は、行進曲「ボーイ・スカウト・オブ・アメリカ」で幕を開け、「梁塵秘抄～熊野古道の幻想～」、「アルメニアン・ダンス・パートI」など吹奏楽で人気の曲を演奏しました。

プログラム第II部は、「バック・トゥ・ザ・フューチャー」で華やかなオープニングを迎え、「花」、「イマジン」など馴染み深い曲をお届けしました。

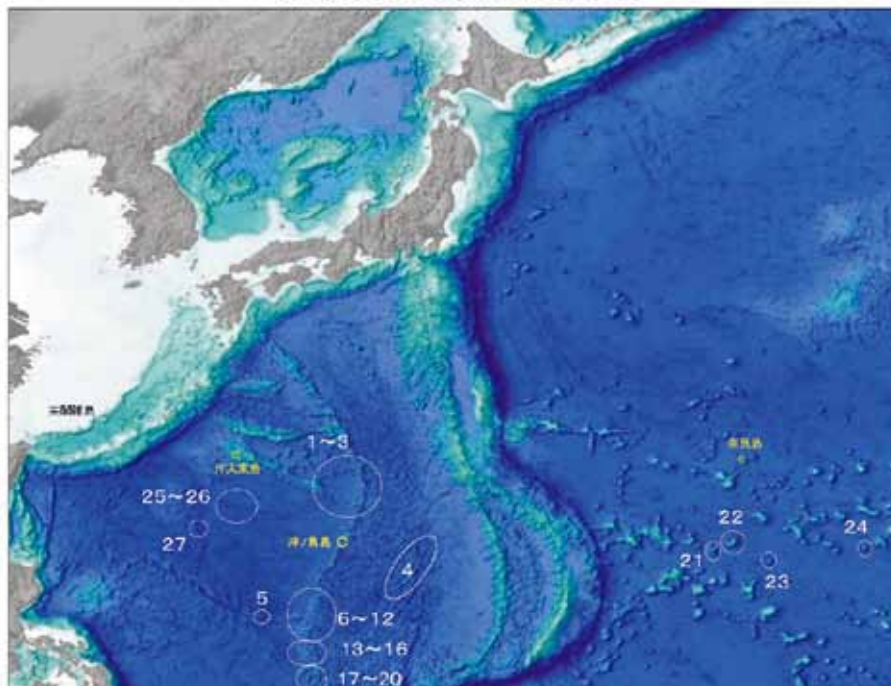
プログラム終演後は拍手が鳴り止まず、アンコ



ール曲を演奏し、うみまる・うーみんと一緒に来場者を見送りました。

「音楽隊の演奏に感動して涙が止まらなかった。」など来場者の感想が多く寄せられました。

今回承認された海底地形名位置図



10月12日から16日の間ブラジルにおいて、国際水路機関（IHO）とユネスコ政府間海洋学委員会（IOC）の傘下にあり、世界の海底地形名を公式に定める「海底地形名小委員会」が開催されました。

各国から提案された海底地形のうち61件に名

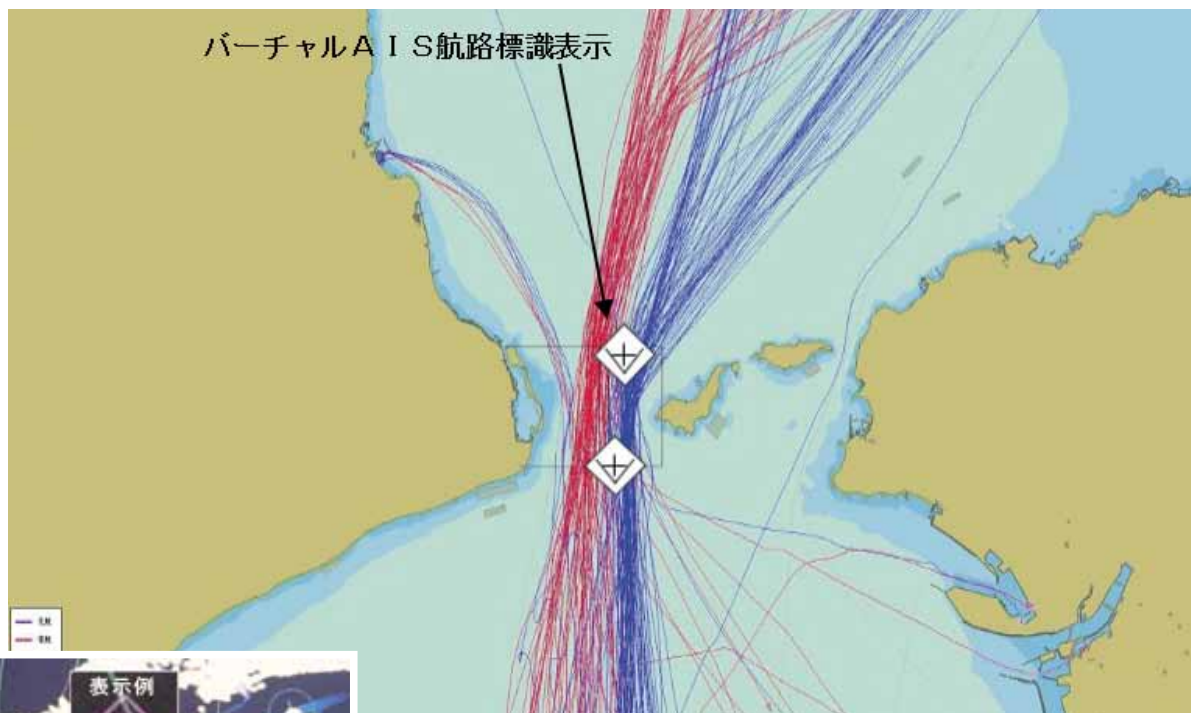
称が付与され、そのうちの27件が日本の提案したものでした。

これらの海底地形名は、IHO/IOC海底地形名集に掲載され、世界中に周知されます。

また、本会議において、海上保安庁職員が同委員会の副議長に選出されました。



日本提案の海底地形名を 国際会議が承認



11月1日から、船舶交通の安全確保を図るための新たな取り組みとして、船舶自動識別装置（AIS）を活用し、航海用レーダー画面上にシンボルマークを仮想表示させる、「バーチャルAIS航路標識」の運用を開始しました。「バーチャルAIS航路標識」については、明石海峡及び友ヶ島水道において実証実験を行っていたところ、その有効性が確認できたことから、今回正式に運用を開始したものです。



バーチャルAIS 航路標識の運用

心と安全を

第一管区海上保安本部 小樽海上保安部

小樽海上保安部は職員 146 名、船艇 6 隻を有する大規模保安部だ
物流の拠点として古くから栄えた小樽港
さらには近年開発が進む石狩湾港を担任水域に擁しており
海難・海浜事故、密漁・密輸入、テロ対策など幅広い対応が求められている

取材・文/中島 敦 (オンサイト)



小樽海上保安部管轄区域

- 管轄区域……………16市23町7村
- 管轄区域人口……………約286万人
- 担任水域面積……………約1万6000km²
- 海岸線延長……………約400km



北の海に安

「ほろべつ」は第一管区海上保安本部に2隻配備される潜水指定船の1隻。出動回数も多く、坪木隆裕船長は、「常時緊張を解くことができない職員をリフレッシュさせることも肝心」と語った。



「風通しの良い職場作りが、組織力の向上や人材育成の鍵」と語る森部賢治保安部長。初任地は根室。第一管区海上保安本部への思いは強く、「初任地で学んだこと、身につけたことが自分のベースになっている」とも。





平成26年12月、小樽港に着岸中のカンボジア籍貨物船から覚醒剤を所持して上陸した乗組員2名と受取人1名を検挙。「ほろべつ」の潜水士は冬の海に潜って投棄物を捜索した。



今年6月、小樽祝津マリナーにて、なまこ約666kgを所持していた密漁グループ7名を現行犯逮捕。その後、共犯者の暴力団構成員1名も逮捕している。

北海道開拓を担い 現在も賑わう小樽港

石狩湾の西寄りに位置する小樽港は、北海道の日本海側でありながらも三方を山に囲まれるという恵まれた立地で、古くから北海道の流通拠点として栄えてきた。開港は1899年と古く、石炭の積み出し港として北海道開拓の拠点として発展した経緯を持つ。1948年の海上保安庁発足と共に、小樽海上保安本部（現・第一管区海上保安本部）が設置され、その2年後には小樽海上保安部が発足している。

現在の職員は146名、船艇6隻を擁する大規模保安部だ。北は石狩市の雄冬岬から西へ60海里、南は島牧村の茂津多岬から西へ50海里を担当海域としており、海岸線は約400kmに及ぶ。海難事故はもちろんのこと、漁場に恵まれていること、また日本海を挟んでロシア、韓国、北朝鮮、そして中国といった隣国とも向き合っていることから、密漁や密輸入からも目を離すことができない。

「特に暴力団の資金源となるような悪質なもの」は重点的に取り締まっています」

そう説明するのは小樽海上保安部の森部賢治部長だ。今年6月にはナマコの密漁で7名を現行犯逮捕、その後共犯者として暴力団構成員1名を逮捕している。「このあたりの海で獲れる黒ナマコが中国で人気のように、密漁後に輸出されるケースが多い」という。また昨年はカンボジア籍貨物船からロシア人乗組員2名が覚せい剤26・7kgを持って上陸、警察・税関との合同捜査により同2名と日本人の受取人1名を検挙している。道内の薬物密輸入では過去最大の量であった。遡って平成13年にはロシアの貨物船から拳銃20丁が発見された大量密輸事件も発

生しており、絶え間のない警戒警備が求められている。

また、北海道で唯一の原子力発電所である泊原発電所や石狩湾港LNG計画に伴うLNG基地と火力発電所の建設についての警備、テロ対策も重要な役目であり、小樽海上保安部所属巡視船「しれとこ」は、第一管区海上保安本部唯一の警備実施等強化巡視船であり、情勢に応じて他部署や他管区にも派遣される。3基ある原発は現在すべて停止中だが、主に「しれとこ」、「えさん」といった小樽海上保安部所属巡視船を常時哨戒にあて警備を行うとともに、周辺海域での海難や人身事故などの事案発生に備えている。森部部長は「原発停止により、火力発電所がフル稼働状態となっているため、全国的に原油やLNGなどの危険物船の通航が増えて、海難事故のリスクは高まっているのが現状です。北海道の日本海側では荒天避泊できる場所は小樽周辺しかないのです、防災の面でも油断できません。」と付け加えた。

北海道のマリンレジャーによる 海浜事故の半数が集中 求められる事故対策

一方で海難・海浜事故に目を向けると、小樽管内での船舶海難は近年、平均年30隻ほどで推移している。原因としては機関故障が最も多く、全般的には減少傾向にあるという。昨年は18件、今年も10月末時点で12件と低い数値で推移しており、このまま減少することが期待される。これには地道に繰り返されている海難防止啓発活動による海の安全への周知も影響しているだろう。「もちろん事故が減少していくのであれば喜ばしいことですが」と、森部部長は前置きをして付け加えた。「多数を占めるプレジャーボ-



9.11事件をきっかけに、毎年港湾でのテロ対策訓練を行っている。平成26年10月には小樽港で、今年9月には石狩湾港で実施された。(写真は小樽港での訓練の様子)



潜水訓練は消防等、他機関との合同でも実施している。冬季には凍結した川において氷下潜水訓練を、時には夜間にも行っている。



今年10月、北海道消防学校水難救助課程に対する教育支援として合同潜水訓練を実施した。



今年で7年目を迎えた石狩マリンパトロールステーション開所式の風景。夏の間、警救艇と水上オートバイも活用して事案発生時の即応態勢を強化している。



余市河口港付近のテトラポットに衝突し、半没状態となった漁船から流出した燃料油の防除作業。潜水士は海中で油防除にあたった。

このMPS活動を担っている巡視船「ほろべつ」は北海道に2隻配備されている潜水指定船のひとつ。潜水士4名を擁し、潜水業務及び海難救助にあたっている。今年夏に発生した苫小牧フェリー火災にも潜水士を派遣、また東日本大震災では青森と岩手で被害者救助と行方不明者の捜索を行った。

「ほろべつ」の坪木隆裕船長は「潜水指定船は北海道に2隻しかないため、北の宗谷岬と南の襟裳岬を結んだ北海道西側の範囲をすべて受け持っています。車が落ちた、行方不明者が出たなど、潜水士は昼夜関係なく呼び出されます。わずか4人の潜水士が襟裳や留萌、稚内などで発生した事案に対応するため、精神的にも肉体的にも負担は大きい」と説明する。また、「潜水訓練と部署訓練を欠かさず、乗組員の技量を

上げていく」とも。経験を積んだ潜水士を擁することから消防や警察との合同潜水訓練も実施しており、冬には凍結した川で氷下潜水訓練も行っている。

近年、札幌からもっとも近い港として、石狩湾港の発展が著しい。平成18年に中央埠頭全体が石油コンビナート等の特別防災区域に指定され、多量の石油またはガスが集積される区域となっており、さらに平成24年には特定港に指定され、大型船舶やLNG搭載船の入出港が微増傾向にある。北海道ガスのLNG基地があり、火力発電所も建設中だ。また、風力発電所建設計画も進んでいる。コンテナ船の定期航路が就航し、札幌という経済圏に近いことから、今後も貨物などの需要が増えていくだろう。開発に伴って大規模工事に伴う許認可や、危険物積載船に関わる許可申請も増加。これまでも、そしてこれからも小樽海上保安部は幅広い、多岐にわたる業務への対応が求められている。

森部部長は「私がいちばん重要視しているのは良好な職場環境を築くことです」と説明する。「組織力の向上も人材育成も、風通しの良い職場環境を整えて初めて実現できると考えています。それが事件事故対応をはじめさまざまな難しい業務も総力でこなしていくことにもつながります。また職員一人ひとりが仕事に打ち込める、働きやすい環境づくりも大切です」

一人ひとりの海上保安官の力を伸ばし発揮させ、組織としての力を伸ばしていく。小樽海上保安部は北の海と向き合い、その安全と安心を守り続けている。

トの事故は、夏場、それも週末に集中しています。この時期の天候によって海に出る人の数が左右されますから、こういった要素を考えないといけません」

また海水浴客らによる海浜事故に目を向けると、北海道で発生した過去5年間のマリネジャーによる海浜事故のうち、実に46・7パーセントが小樽管内に集中している。これは札幌という都市圏に近接していることや海水浴場に恵まれていることに起因するものだが、それだけに夏場の海浜事故対策は極めて重要だ。

そこで小樽海上保安部では、平成21年より毎年夏場に石狩MPS（マリンパトロールステーション）を開設し、海難防止と安全指導に努めている。巡視船「ほろべつ」が石狩湾港に着岸し、警備救難艇や水上オートバイを使って万が一の事案への即応体制を整え、また陸上からも海上保安官がパトロールと安全への呼びかけを実施している。

人材を育成し組織力を伸ばして北の海を守る

経験者を積んだ潜水士を擁することから消防や警察との合同潜水訓練も実施しており、冬には凍結した川で氷下潜水訓練も行っている。

近年、札幌からもっとも近い港として、石狩湾港の発展が著しい。平成18年に中央埠頭全体が石油コンビナート等の特別防災区域に指定され、多量の石油またはガスが集積される区域となっており、さらに平成24年には特定港に指定され、大型船舶やLNG搭載船の入出港が微増傾向にある。北海道ガスのLNG基地があり、火力発電所も建設中だ。また、風力発電所建設計画も進んでいる。コンテナ船の定期航路が就航し、札幌という経済圏に近いことから、今後も貨物などの需要が増えていくだろう。開発に伴って大規模工事に伴う許認可や、危険物積載船に関わる許可申請も増加。これまでも、そしてこれからも小樽海上保安部は幅広い、多岐にわたる業務への対応が求められている。

森部部長は「私がいちばん重要視しているのは良好な職場環境を築くことです」と説明する。「組織力の向上も人材育成も、風通しの良い職場環境を整えて初めて実現できると考えています。それが事件事故対応をはじめさまざまな難しい業務も総力でこなしていくことにもつながります。また職員一人ひとりが仕事に打ち込める、働きやすい環境づくりも大切です」

一人ひとりの海上保安官の力を伸ばし発揮させ、組織としての力を伸ばしていく。小樽海上保安部は北の海と向き合い、その安全と安心を守り続けている。



港湾工事関係者を対象とした講習会。安全に工事を行うために、要点を抑えた分かりやすい説明を心がける。



雪の多い地域だけに冬場は灯台が氷で覆われることも。氷の除去作業も大変だが、灯台の痛みも進むため、より頻繁なメンテナンスが必要となる。



灯台や巡視船など、小中学生を対象とした施設見学や、「海上保安友の会」会員との海浜清掃など、年間を通じて地域と連携してのイベントを実施している。

現在4名いる「ほろべつ」の潜水士の中でリーダー的存在となる金澤海上保安官(写真中央)。潜水士として25年間の勤務は海上保安庁の中でも最長だ。



MESSAGE from OIARU

小樽の海を守る海上保安官



潜水士は天職。私の力を活かして使って欲しい

巡視船「ほろべつ」機関士(潜水士) 金澤 正信(47歳)

す。全盛期と比べたら体力は確実に落ちているしパワーも出ない。でも「そろそろ潜水士は厳しいでしょう？」って訊かれても自分はずっとこの生活を続けているので、これで普通なんです。

潜水士の仕事というのは基本、体力勝負。技術や経験もありますが、とりあえず体力をつけておけばなんとかなる。ですから自分と一緒に船に乗る潜水士には、「ドルフィンと呼吸停止は自信がつくまでやれ」と言ってます。ドルフィンの訓練は厳しいのでみんな嫌がりますけどね。でも、時化てる時でも泳げるという自信があれば何とかなる。もしも潜っている時に酸素がなくなっても、1分でも2分でも「俺は呼吸を止めていられる」という自信があれば、パニックにならないで済む。1分や2分って、実は意外に長い時間なんです。

また、潜水士は支援班がいてこそ潜ることが出来ます。そういう意味では支援班との信頼はとても重要ですし、本船の支援班だけでなく、例えば

派遣された先の支援班と行動することも常に考えています。「支援なくして潜水できず」ですね。

以前、函館の潜水指定船に乗っていた時ですが、訓練中に自分が5分前まで乗っていたヘリコプターが墜落した事故があります。もちろん救助して7名が助かりましたが、3名が亡くなりました。夜間で、津軽海峡の流れも速くて、「あの状況で7人を救助できただけでも奇跡的だ」と言う人もいますが、今でも「もっと違う、もっといい方法があったんじゃないか？」と自問します。どんな海難事故でも終わってみたら、あの時こうしておけば、というのは常にあります。正解はないかもしれませんが常にベストを求めなければいけません。

全国の潜水のOBの人からは「金澤はまだ潜水士やってるのか？」って言われるかもしれませんが、自分はこればかりを続けてきました。自分で辞める気もありませんし、官の命のままに、自由に使って欲しいというのが率直な気持ちです。

今年で47歳。阪神の金本知憲選手と同じ年です。この11月で潜水士として丸々25年になりました。昔は潜水士はまったく人気がなく、恐らく本部から「学校出た奴を騙して潜水士にさせろ」とか指令が出たんじゃないですかね(笑)。騙されて潜水士になったクチです。とはいえ、今にして思えば潜水士というのは自分には天職だったと思います。訓練が厳しかったり、現場で怖い経験もしましたが、そういうことすべてをひっくるめて楽しくやらせてもらっています。もちろん年齢的に厳しいと感じることはありま

活躍が小樽を支える！

巡視船「ほろべつ」主計士補(潜水士) 柴田 稜平(23歳)

船の行動中は朝から晩まで3食作ることが主な仕事です。去年まで室蘭海上保安部の巡視船「えとも」に乗っていましたが、「ほろべつ」では大型の巡視船では携ってこなかった献立や業者への注文など、最初から最後まで自分で仕切ることができ、楽しく、やりがいを感じています。献立は「3ヶ月間はメインディッシュが被らないこと」を自分に課しています。また経験が足りない分、色どりや盛り付けにも気を配っていますが……皆さんがどれだけ気づいてくれているかはわかりません(笑) 自分でレストランに食べに行って味や見た目を覚えてレポートを増やしています。船で出せるかどうかは、家で一度試してからですね。

これからの目標は警備救難です。まずは救急救命士の資格を取り、さらには特殊救難隊あるいは機動救難士に進みたいと努力しています。そのためのトレーニングも欠かしていませんし、モチベーションを下げないようにマスターズの水泳大会に出るのが今の楽しみです。



3ヶ月間は同じ料理を出さない
新メニューは自宅で試してから船に



船全体のパソコンや
ネットワークセキュリティーを維持

巡視船「ほろべつ」通信士補 瀧見 和哉 (27歳)

通信士の業務として、入出港の際に他の船舶と通航方法を確認したり、どちらの船が先に出るかなど、そういったやり取りをしています。無線通信は電話のような相互通信ではないので、要点を押さえて適切な、誤解のない表現を心がけています。また船内のパソコン関係、ネットワーク関係の保守管理も私の仕事です。今はこちらの方が主な業務になっていますね。海上保安庁全体でも、情報セキュリティーは重要な課題ですから、日々、セキュリティー上のリスクを減らすように取り組み、船全体に呼びかけています。

保安学校を出て最初は紋別海上保安部の交通課で3年間陸上勤務していたので、実は船の勤務は初めてです。10月に曳航訓練があったのですが、時化た海での作業があれば怖いということを初めて知りました。3、4メートルの波の中で、もちろん命綱をつけていますが、波の力の大きさを身体で感じました。

「ほろべつ」は潜水指定船ですが、潜水士以外にも多彩なバックグラウンドの方が集まっています。色々な業務について、それぞれの方から学び、少しでも海上保安庁全体の仕事を理解していければと考えています。

巡視船「ほろべつ」主任航海士 大岩 恭平 (23歳)

この船は潜水指定船ですが、私は潜水班と支援班をまとめる現場指揮付きとして業務にあたっています。しっかりと潜水士を支援できているか、潜水士が安全に作業できているかを監督する任務です。赴任してから現場に出たのは5、6回ほどですが、その中で何度か現場指揮を取らせていただきました。初めて現場に出た時は何をどうしたらいいのか全くわかりませんでした。だんだんと潜水士が何をしたいのか、その現場で何をしなければならないのかを把握できるようになり、最近では自分で判断できるようになってきました。これからはもっと潜水士が求めることを把握したり、自分から提案するなど積極的に意思疎通を図っていきたい。そのためにももっと経験を重ね、法令や規則を調べてそれに則って動かなければならないと考えています。

もともと海が好きだったので漁師になりたいと思っていましたが、中学校の担任に海上保安官という仕事もあるぞと勧められたのがこの道を選んだきっかけです。水泳とランニングが趣味なので、オフには泳いだり走ったり。トライアスロンやアークスロンの大会に出ることもあります。



現場経験を重ねて
必要な動きが見えてきました

体力では敵わないこともあるが
女性ならではの活躍の場も



交通課 航行管理官付 山本 佐恵羅 (21歳)

交通課は、船舶の海難防止を目的とした業務を行っており、主として灯台などの維持管理を行なう航行援助業務と船舶交通の安全を目的とした関係法令を運用する航行安全業務があります。私は両方の業務を行っており、仕事をする事の難しさ、厳しさを実感しております。海上保安官という仕事については小学生の時に親から聞かされていましたが、ちょうど中学・高校生の頃が尖閣の問題や映画「海猿」が流行った「海猿世代」です。

航行安全業務では、出入港する船の動静を把握し、指導や助言を与えたり、港湾工事業者の方との許認可に関わるやり取りでは、作業中の安全対策や注意事項について指導することもあります。そういう時は、制服を着ていたら若手でもベテランと変わらない一人前と思われるので、質問に答えられないことがないよう勉強しています。

20リットルの燃料を背負い、灯台までの山道を歩いていく時など、どうしても男性には敵わないと感じることもありますが、反面、海難防止活動など市民の方と接する時には女性の方が親しみやすい面もあります。女性だからこそ活躍できる部分も伸ばしていきたいと思っています。」

笑顔 を 忘 れ ない 若 手 の

巡視艇「すずかぜ」航海士補 成田 千波 (22歳)

最初は釧路海上保安部の巡視船「えりも」に乗り、4月からこちらで巡視艇「すずかぜ」に。10月でちょうど3年目になりました。子供の頃から海とは関係が深く、海上保安庁の体験航海に乗せてもらったりしていました。職業として警察か海保が考えた時、海が好きという理由でこちらを選びました。

「すずかぜ」は人数の少ない船なので身につけられることが多い。男女関係なくどこでも駆り出されますし、航海日誌の作成から密漁の取り締まりなど「えりも」の時には経験できなかった業務もあります。そう考えるとこの艇で色々な現場に行かせてもらえるのはありがたいですね。海上保安庁の仕事にはいろいろな業務があるので、幅広く学んでいきたいと考えています。

「えりも」に乗船していた時は、最初は女性だからという面はありましたが、積極的に業務に関わっていくことで色々なことをやらせてもらえるようになりました。仕事は、分かってくるとどんどん楽しくなってきます。後は男性よりも愛想よく、笑顔で明るくをモットーに仕事しています。



何事にも積極的に
笑顔で明るくをモットーに



小樽 エトセトラ

特集では伝えきれなかった小樽をここで

● 北のウォール街



旧日本銀行

早くから北海道開拓の中心市として栄えた小樽は、かつて「北のウォール街」とも呼ばれていました。現在も残る旧日本銀行小樽支店は、現在では金融資料館として一般公開されています。周辺には旧三菱銀行小樽支店（小樽運河ターミナル）や旧北海道銀行本店なども残されています。

● ニシン御殿



市民の台所

三角市場、鱈友市場、手宮市場、南樽市場、新南樽市場……小樽市内に点在する市場は庶民の台所。港から上がった新鮮な魚介類が、人々の食生活を支えています。



小樽貴賓館 青山御殿

ニシン御殿



運河プラザ

北海道最古の営業用倉庫である旧小樽倉庫を使った観光物産プラザ（通称：運河プラザ）。小樽駅から近く、観光パンフレットや土産物が揃っているので、小樽や周辺の情報をチェックするのに便利です。



鯨御殿



茨木家中出番屋

小樽貴賓館はニシン魚で財を成した三大漁家（青山家、白鳥家、茨木家）のひとつ、青山家の別邸です。また、番屋とは網元の居宅兼漁業施設であり、茨木家の中出番屋や、田中福松の鯨御殿も観光地として公開されています。

小樽運河



坂の上から小樽港を見下ろすことができる船見坂は、勾配15パーセントという急坂です。映画やドラマのロケにも使われています。

船見坂



小樽と聞いて真っ先にイメージされる運河。石造り、レンガ造りの倉庫と共に、物流を担った、往時の賑わいを忍ばせます。夜にはガス灯が灯り、小樽の風情を伝える観光スポットであり、観光客向けに運河グループも運行されています。また、運河付近の川では秋に鮭の湖上が見られます。取材時にも何匹が見かけることができました。



B級グルメ



あんかけ焼きそば

お寿司が有名な小樽ですが、小樽のB級グルメと言えば「あんかけ焼きそば」です。油で揚げた麺に、さまざまな具材が入った熱々の餡が食欲をそそります。店によってそれぞれ特徴の異なる味を楽しむことができます。

小樽ガラス工芸の発祥

ガラス工芸が盛んな小樽。漁業の拠点として、物流の拠点として賑わった小樽港で、船に使われる舷灯や漁業用の浮き球が作られたのがその始まりです。現在では運河に沿うようにガラス工芸店や美術館が並び、観光客の人気を集めています。

北海道最古の鉄道、手宮線



1 872年の新橋—横浜間の鉄道開業から8年後、1880年開業の手宮線は、北海道最古の鉄道である官営幌内鉄道の一区間です。市内の南小樽駅から手宮駅区間を結び、石炭や海産物を運搬しました。現在は小樽市総合博物館にて、往時の蒸気機関車をはじめ鉄道施設が展示されています。

NEWS FLASH



学校

テーブルマナー実習

8月20日 海上保安学校



学校

高倉神社大祭に学生達が参加

10月18日 海上保安学校



大学校

海保大女子学生へ海上自衛隊練習艦 女性艦長が講話

9月4日 海上保安大学校



二管区

全国初！ 「大規模地震発生！ 日赤と連携して、 被災地に向かえ！」

8月25日

宮城海上保安部



一管区

新人保安官、紙芝居で 園児に語りかけ

9月7日 釧路航空基地



二管区

震災後の 着衣泳教室

7月3日から9月9日

釜石海上保安部



一管区

羅臼小学校 船内見学

10月28日 羅臼保安署



四管区

巡視船あつみ解役式

10月19日 名古屋海上保安部



三管区

海上保安庁音楽隊体験入隊！

9月3日 東京海上保安部





六管区

徳山海保フェスタ2015 10月4日 徳山海上保安部



五管区

姫路港ふれあいフェスティバル(秋版)開催
10月25日 姫路海上保安部



六管区

広島港に太平洋の白鳥入港!!
帆船フェスタひろしま2015に六管区も参加

10月24、25日 第六管区海上保安本部



五管区

人命救助者への署長感謝状贈呈式

10月28日 海南海上保安署



八管区

流木等の回収装置を開発
業務の効率化・事故防止に

10月29日 小浜海上保安署



七管区

関門海交センター
運用管制課、
初めての保安学校
新卒者への教育が
一段落!
“関門海峡の船舶事故”
ゼロ”を目指す管制官
としての第一歩”

9月24日

関門海峡海上交通センター



十一管区

石垣地区における女性職員懇談会
～女性職員が働きやすい職場環境づくりを目指して～

9月10日 第十一管区海上保安本部



十管区

備え良し!
宮崎市沿岸海難救助訓練

9月24日 宮崎海上保安部



九管区

FM放送で海保の情報発信
100回となる!!

9月10日 七尾海上保安部

第16回未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクール 受賞作品の決定

海上保安庁では、海洋環境保全思想普及活動の一環として、公益財団法人海上保安協会との共催で、未来に残そう青い海・海上保安庁図画コンクールを開催しています。今年で16回目を迎える本コンクールでは、全国の小中学生から34,823点の作品応募があり、選考審査会の結果、受賞者・受賞作品は下記のとおり決定いたしました。

海上保安庁
長官賞



特別賞

(国土交通大臣賞)

小学生低学年の部

かがわあやか
香川彩夏さん

岩手県釜石市立
唐丹小学校 1年生



中学生の部 たざわあ い
田澤亜衣さん
福島県双葉郡大熊町立大熊中学校 3年生



小学生低学年の部 なかかわじ めい
中川路芽衣さん
鹿児島県枕崎市立桜山小学校 3年生



小学生高学年の部

いはらかな
新原佳奈さん

長崎県佐世保市立
相浦西小学校 4年生



小学生高学年の部
なかかわじ きい
中川路貴要さん
鹿児島県枕崎市立
桜山小学校 6年生



海上保安協会
会長賞

小学生低学年の部

たかはらな お
高原奈央さん
石川県羽咋郡志賀町立志加浦小学校 2年生



中学生の部 おおみねり お
大嶺里王さん
沖縄県宮古島市立上野中学校 2年生